

江戸志

自卷之参
玉卷之四

ル 4
1553
3



1634
1553
3

新編江戸志 卷三 目錄

一 湯島 神田妻袋 白岡

一 本江 丸山

一 上野

一 下谷 池之端、坂本、入谷、金杉、千束、
蓑輪、根岸

新編江戸志 巻之三

新編江戸志 巻之三

東武 懐山子 輯著

湯島

和名類聚鈔云 湯島 由之萬 北条全限帳 湯島アリ

風土記云 公穀二百九十二東三字田 倣粟三百九十二丸三字田

貢鹿 狐 兔 山 雉 馬 牛 等

按 源順の和名鈔ニ出ルヲ見テハ 久シク地名耶

然レ元湯島本御所一ツトシ 故ニ本江ニコレヲ云フ

ト云フ 本江ニ湯島ニ 厨火 在リ

○ 神田社 社在二十石 神主 芝崎官舟



神社略記云 社家傳説、当社人皇四十五代聖武天皇之所宇
天平二年鎮坐也 始神田橋之内有之 元和三年今湯島
一目に移し去りし也

江戸砂子云 祭神大己貴神 平親王 将門 灵、二坐
在古神田也 一ヶ國ニテ所ニテ所の御田有之 大神也
初穂の神供を収む 当國を豊饒郡也 是等村有之 大己
貴神、五穀の神也 其所、人多く此神を祭りあり
将門の灵を祭り、人皇十一代朱雀帝 天慶三年
二月十四日 平白河盛朝、中、若原秀郷討之 其他将門の
弟 源厨屋三郎、将頼、武州多戸郡 中野原、出張

秀御子 千晴と戦ひ 将頼利をく 天慶三年七月七日 同國川越、於
千晴が為に死に 中野古戰場、其灵人民を煩む 是文、此一
遍上人代真放坊 当所遊行の時 村民此野を懐く 其堂の長を
将門の灵を相殿に祭り 神田大明神ニ坐し 其傍、草庵を立し 是
等の道場なり 是淺草神田山日輪寺也

将、江戸砂子、是文の比より 将門灵を祭り 神田ニ坐し 是子孫
りし可し 寛永記云 寛永三年十月十日 京都より公家荒下向
是行車 神祀の爲也 此時烏丸大納言 光廣卿 江戸須田所
を通らば 垣結廻りし 古塚有之 而此、如何成者の
標シト尋所らば 是平親王 将門也 勅勅の人故古

如此誰か事し成らざる由申九思光廣卿時明て朝敵を
とくし武勇の姿登り人也最早年久しう歴に主勅免あり
八所御所の例に仕せ神主を多しう國家の鎮守共成りて
將軍家にて疑ひ歸京のは奏聞あり勅免あり近所故
神田明神の社に多し貴賤群集して奉詣り寛永三年
十二月九日勅免あり神託より九月十五日各祀あり記す
然る時明て相殿にあり寛永の事しう狂古の沙
汰にあり江戸の女子記すあり

本草集云深夜帰雁と事と神田の社にあり

よみ付の時

なきつなきをいふとまのうのいしゆおすの丁を

牛頭天王 三社 当社の地まき 毎歲六月神事あり

持しは是江戸の神社をいふ

風土記云 江戸神社 大正三年牛宮所外素戔鳴らす
神貴百束三子田

牛頭天王、素戔鳴らすなき狂古あり此所に鎮座をいふ

江戸神社をいふ疑あり

神侍瓦の手水鉢あり此石住きのとけの破またりを以て

古事類聚の事あり此より納めし任吉、外あり

人麿社

古来より社あり近來神像を納む杉自木は長五寸五分
額所法阿作攝州任吉奉納三百作の内より江戸所
子あり

八幡神社

求海親記曰当社、往古鶴岡より北条氏直寄進の隨身
今、何れ持し、昔時門の社といふ是を今、今時門、本社
殿にあり故に当社、八幡と崇む成りしに記す

神事能

北条五代記、大永五年より初より、北条氏直寄進の純
准、四時勤し、而して近世此事絶たり

小路町の井、神田社地より、松浦高元より

江戸世傳の流、流しては、たゞ之に限りなく、好む
井あり今、井の蓋、鐵より水を汲み、江戸所あり

聖堂 領十石 儒宗林大學家持

和漢三才圖會、云唐高祖武德七年二月丁巳始親奠行
本朝又武天皇大寶元年丁巳始親奠行、孔子廟中古
断絶、而尾陽義直卿林道春於上野別荘寛弘十年
建聖事、御自書先聖殿三字、以為額、此聖事、類火以

後無之元禄年中 有御堂 遷于湯島

江府名勝志云本邦叙奠大室元年二月初而後花園天皇寬
正年中云云マテ其祀猶未ク拜セズ後土御門院應仁元年大乱
の後其祀断絶シテ再興シヨリ

大成殿、額 憲廟 御筆

仰高 入徳門 杏壇

此三額、持明院基時卿御筆 元禄十二年二月廿九日類火
の後、基時卿の御息基輔卿、御筆あり

○御茶の水

江戸砂子云聖寺、西此井名水ニテ御茶の水ニ只上ラレヨ

神田ウツ切割の時洲ニヨリテ水除形跡ナク享保十四年江戸川洪

水の川幅を廣クシテ川中ニカケテ今ハ其所ニカケテ

○櫻馬場 左右、楓梅の大木、河原の名付あり

○初音の教 梅馬場と所、火漬カキの向

里談云元禄比春御成の時此教ニ當リ、寫の初音を奉リ、せしむ
此名と初音の教と名付ヨリ、今亦、所ノ名付

○昌平坂 聖寺の前の坂を云ふ

詩家地名存曰 此地聖寺あり故、魯の昌平郷ニ比ス

南郭詩 昌平橋北 對城門、ヨリ

○湯島坂 神田社前の坂を云ふ

○明跡の井 昌平橋の北にあり

此所浅草明跡の旧地なり 且後松平加賀守殿を祀るに感
今も廣くあり 芝原なり 此井甚の清なり 也と江戸神子なり

○瑞輪寺旧地 同所

谷中瑞輪寺此處より明曆の比谷中に移り

○妻恋稻荷社 神主 村本内記

冬神 日本武尊 立花姫 倉稻魂命 三坐

神社略記曰社説曰当社人皇十代皇行天白王皇より日本
武尊同祀立花姫倉稻魂命三坐也所謂妻恋日本武尊
戀立花姫稻荷倉魂稻命也是と妻恋稻荷三社大

明神と号す一殿七坐傳り此外大國主神 少彦彦中を相殿す

九九神也当社に當國惣五宮同、倉武社トヤ申傳り日本武
尊東夷征伐御取陣の時秋夕、奉武具ヲ藏、豊湯島

女正此所より東海に向て五人妻恋に逢か見、神詠有り當
所上古より妻恋甚と云と吾事ト云ハ縁々皆当社より歎し

当社縁起より橘姫命東海墟八百餘、陽寛ヲ止メて海陸
ヲ守護ス、内も次し船魂の神トあり、此記より再示、

神社略記の江一同、此縁記ヲ畧し
求当親記の人名、恒及以妻恋甚ト云事昔社の神祕也

或人云日本武尊吾事のあり、日本地にて上野を碓氷山とい

○妻恋村 坂下の少康の墓也

江戸談話云山判官 信太右衛門 戦負て此村の邊より近來
る爰に倒れ死せしと云村にこれ人して三年の内に死
しと童蒙の云傳人たりと記す

將山判官と信太右衛門と云所まぬ戦ありと実証
見たり云云や行重と云者田代に在り信太右衛門
信太右衛門の事云云云云將軍將つ。云云將
國の子を信太右衛門と云者所信太右衛門。信太右衛門
戦ありと云云の事云云云云戦ありと云云
鎌倉天子の事云云云云信太右衛門の事云云

畿内に出主馬の事政を討つ事ありと云云
を後につくす

○稲荷社 妻恋墓下 あり天台 法性院

世に元妻恋と云事傳へ江戶城ありと云 按云云江
戸城は江戸にありと云の事山判官行幸を云ふことありと云
此稲荷の事云云

○中一坂 湯島社中町ありと南下るへの坂

○湯島天神社 社領五石 あり北野山 花見段
本朝談社一覽云文明十年秋大田道灌墓に一堂夢中
見接菅五相其翌朝成人卒然末獻菅五相所

親筆之函係可謂美事也遂於城外之地北畔建菅五相祠
中宇敷十頃之美田裁梅瓦敷百株側有亭廟号香月
寺惠北國地行云想云岡の無油丹島云々所行寺杯
云々云々是と少時云は社云々云々

○湯島神社 湯島大社地主 戸隠社号也

風土記曰湯島神社貢百束之毛之字田雄略天皇丙午
二年癸丑八月自官所祭天午乃雄布也

砥餅 江戸砂子三月十日砥餅を餅を四角の餅のこく

切て神供と 其後父子を配る此所京が所も何と云

祭日 二月十日 十月十日 亥夜也 十月十日 當社秘法の日也
云々の二月十日云々

藤原祐長社

と云々 當社藤原の 中比神託の事云々 當社地の内
移る也

宝珠弁方天社 男坂下

江戸砂子云々此處の地長井実彦庭家の地云々 付不考全
余程の地云々 七世云々 孫云々 國傳云々 長井実
彦の宅江戸云々 跡を今中山區の内住云々 田云々 行爲云々

寺院

○百螺山鳳閣寺

湯島一丁目

三空院流觸頭遠州瀨松二諦坊兼帶和州鳳岩寺

の宿寺あり

○宝林山大悲院是雲院

真言宗聖東惣本寺

京淨堂殿和尚

本号雲農 寛吉此其
元禄十五年六月我

和漢三才圖会云元禄四年大樹引見賜寺地創建精舎

且賜齊田令為聖東真言律本寺

○萬昌山円満寺

真言

可山木食義光

○天澤山麟祥院

禪宗 妙心寺末寺 在三百石

○山 滑川列和尙 謚号 本家定禪師

婦女傳曰春日局、并藤利三娘也 稱要三成妻、後年

慶長九甲辰年、御乳人、比目山三千石を以て寛永二己丑年秋

野を以て神田湯島の地、菩提所を建之、寺名三百石を以

寺附有、天沢寺と号、同二十癸亥年九月十四日没、法名麟

祥院殿從二位了戒大師

○常樂山宝林寺

浄土 智恩末

○山

○金剛山延壽寺根生院

真言 江戸四ツ寺の内、寺名二百石
高智院末 湯島切通

○山 泉登法印、春日局猶子也 寛永此根生院の跡号を以て

本寺、並河の末、春日の作のり、江戸女子塚の跡、出

○護之寺 逆流不動尊

○常楽山法林寺凉智院 浄土 智恩末 湯島

根生院橋の
元大根畑

本寺、灵像 春日の神作 並河の末 总覺作 亦大社付の作

○専修山講安寺

浄土 情随院末

無縁坂上

○山 迴蒼上人 正保三戊午年八月十九日没

本寺 阿弥陀 惠心作

本郷

南白奉詔中

本郷

南白奉詔中奥治乱記より太田原資本郷の領有
より記す然るに午の地也北条公限張る湯島本郷
より

○本郷天神社 本郷四丁目別当富光の真光寺

社傳云神傳に見送天満宮といふ菅家筑紫へ赴く
時御所見よといふ刻に西の傍中へ往古御所の
太田道隆傳し信州其後より天神の殿河へ移す
当社、駿河へ移す其後又本郷二丁目へ移す此時長

たつ社... 社氏破壊... 旧記亦此時、失火後又当所(務)やま
惣し本御宇の惣領守也本御往古奥州海通より此真光
寺の菴也

○別橋 本江四丁目目小舟也 終に本右四丁目描り丸山本
此宗の一本云昔太田道灌領地の境國々々付ふその比
追放者も此より一故りとなす

○御薬園跡 湯島四丁目の北松浦氏の石塔の也

○大根畑

上野所丸... 世と多く大根を作り出せり
名付く其の地を室戸。此より薬店あり多く
成り也

○傘谷 此邑も昔の傘を製し出さるる也

○地獄谷 樹木谷を俗語してちこくみまを云ふ也

○御方町

旧事、菟話云本長元和り以此を御方と名せり
毎日的坊... 是は御城より鬼つ... 御
其後覺取身中鬼門、東殿山御達之所也此御
を目白台水屋敷口へ移り... 此を云々、お方町と云

○臺政坂 お方町に上る坂と臺政坂を云はるる名

き

○鑑坂

おろすの丸山下坂をいふ

往古以来、武氏鑑制し、御孫有れば鑑を修る坂の

名ありむき鑑のふら古き道の付し旧記ありき

いふそのやうむき鑑の五六鑑のつゞ也、続日本記曰元正

天皇、天應二年五月辛卯、高麗一千七百九十九人、遷于武氏國

と、其の此共、内も五六鑑を御造りけり、當國の衣冠

とありき、了者部、今の府中の也也、と、孫才町の位せり、

○たごん坂

本江より丸山に下り坂

○菊坂

丸山より小石川に下り坂

南向居詰にむき、菊作り、畑有れば坂の名なり也

○梨木坂 丸山の内

南向居詰にむき、昔大木の梨有れば坂の名なり、戸田氏郷

子陸若の若ト居り、梨の木の茂りて

○本妙寺坂 丸山本妙寺のむき坂をいふ

○森川宿 本江より目の先

○本郷道分 板付海道の道分也

寺院 兼 寺中の神社

○薬王山 遍照院 三念寺 真言 弥勒寺末 おろす

○山品隆 本尊導師

略縁起之文明手中一人の作り若り一宇の草庵をむまひ編
照院と号し奉る。慈覺大師の真作大目末女主一茶器
爰に当院の源安の末を往昔惠心僧都母公病氣の爲に
彫刻一舟の美像也上足の分子慶祐所關梨此像を奉
持一年月ゆ轉一三呼風来寺が移り長手中一武死
安靜の時武家具此尊像奉は祀を傳来此所安主
中則ち當今を道て送王山三念寺と号す

○應供山等正寺 一向宗 同所
開基 釈玄澄生國三州の人元和八壬戌年起之
奉了 阿比陀 春日作

○青柳山撫安寺 同宗 同所

河山 宗心 元和三年一歌之

○嶺松山宝樹院昌清寺 浄土 智恩末 元町

河山 天蓮社龍峯上人冷吟和尚寛永十四年三月七日寂

寺傳云本尊阿比陀聖德太子以佛りの尊像御細工道具
尊像の胎中あり當寺御下園前、僅りの草庵ありが或時
武者一人依の中へ尊像を入持来りて草庵に於け歸るは
年経ると彼武士来りて依り當時の本尊を以て送りの
年月を經て駐河相公の御乳母人以草庵に來りて
公所菩提の爲に終に一字を造りて則ち當寺を以て人の清名

甲

○祝峯山長泉寺

禪宗 詳見寺末

丸山

○妙光山無善寺

法苑 甲州上野本遠寺末 同所

○正行院日田上人 寛永年中歿之

○徳宗山本妙寺

同 寛永年中歿之 同所

○日慶上人 慶長年中歿之

本藏院 感應院 本行院 本行院 仙林坊

寺中 本玄坊 真授坊 円行院 真入坊 円栄坊

久遠坊 立正坊

上野

上野の住持より上野の地、志ましく旅籠のり、上野所
とて、上野に号始とす

江戸砂子の地始、志ましく也、早刻に比き代り地
と、燦井の、志ましく也、伊賀の上野、三方より上りて
少き山あり、地、似たり、依りて上野とす、伊賀の上野、
車坂、法多坂、か、志ましく、同名の所、有り、とす

金杉、出、志ましく、古名、志ましく、伊賀の上野、
江戸砂子の説、甚、志ましく、少、志ましく、四、上野

名を... 天正の後此地は津... 後重和名中院... 此所の古名の中傳... 付く此まき... 忍ぶの吾... 廣野... ちん...

○忍ぶの忍 八重は抄... 武蔵守... 河内...

皇祇園國記... 此の... 忍ぶの吾... ちん...

そそ松島の... ちん...

ちん... 忍ぶの吾... ちん...

宗祇方角物...

源... 忍ぶの吾... ちん...

○五条天神社 他中天神... ちん...

即ち吾河... 昌来持

祭神... 昌来持

社務... 昌来持... 昌来持... 昌来持...

説の大さし違へしを知らず

○東叡山寛永寺山頭院 天台

并基慈眼土河 天海大僧正所建

前大僧正行状曰 將軍家欲建宗廟 元和八年冬十月

召官永主膳正参吉乃駒并治中を以て馬保一合に地を武陵

城西北之間 西人献圖書請台命以定封境 寛永三年

春二月命乞酒井談岐守忠勝掌奉行を官永主膳正

監經營乞空原源六郎掌材木土石之用下略

中事 南向 高十八丁長廿五丁 横廿八丁

元禄五年寅八月栋上同年九月三日供養の事 傳記に有

額 瑠理殿 元禄太上帝勅筆 江戸妙子に有

田廊 寛永年中藤中和泉守高虎建之 南

額 寛永寺 後水尾帝勅筆

女殊樓 元禄年中中事に有 而建之也

款 吉祥寺 解脫院 去公法親王所筆の由

法集堂 寛永四年丁卯九月吉辰紀州亞相公所建之

常行堂 同此尾山亞相公所建之 世傳是を存心寺に

雲水堂 三重中堂に前あり 土井大炊頭利勝建之

輪花 同所水戸黄門公所建之

番神堂 中事に有 天海大僧正建之

鐘樓

土井大炊氏御建之 高欄之 竜左甚五郎彫之

日光御宮

寛永三年御建之

寛明日記、別宮 寒松院

清水

本寺千手觀手音 惠心僧都作

主馬判官盛久守奉る

山王社

落穂集、云往有此社御境内より 太田道灌勸請を寛

永に此地に移せしとあり

大佛

唐銅丈六

江戸砂子云あり、ぬき佛

といひ、中書より建之の時役の御書を連て今之兩方の

已びらむ

時の鐘

大佛の前

大石燈籠

奉寄進

寛永八年辛未孟冬十七日

仇久間大膳亮

江戸砂子云より丈余下石埋りし 刻を

平朝臣勝之 大石高り一丈二尺

掉石と地程あり

南向を築く云仇久間大膳亮勝之、高九代三浦介春村

亦本郎家村十四代久右衛門盛次四男大膳亮勝之也

一丈の石を以てと云し

大堰

清なるのうら井の堀りし 梅也是を

秋色梅と云由江戸砂子云あり

慈惠大所

元亨親書云 親良源氏水津氏江州海井郡人也母物部氏夢中海中一向天上日光未入懷中覺而孕也
延長十二年九月三日生中興永敏之手三月三日唱所陀
而減年七十四

慈眼大所

傳曰 天海大僧正足利公方法住段義澄公清木子母
會津芳名盛高の女正西七年誕出御父義澄公覺云
子母一向道とし會津一外向外祖の女を覺しよと云
寛永十九年十月二日丙辰生百二十四歳也云

江戸妙子云 慈惠大所 氏部御法眼等 慈眼大所
重保將對法眼探出等

元龜の山門逆徒の爲に被殺せし阿若梨子の母を
真影系とし民部法眼の摸写せしと西保を時の仲事
福成坊ふら子肩奉り香芳母谷を強くあわし敵
軍通をせしと通をせし矢を放す時福成坊を元とち
の真像を守り奉りたりはみやの通をせしと云此の大将
木下友吉即是そふん甲を脱して保を拜し道を守り
て通し山笠田浦より船を來り湖東額田并に警たり
しは天正年中一山再興なりと傳保を摸りて是也云との

東田院

松平親重の定務

善覺院

後法甲建之

養壽院

権大信和度母建之

松林院

松平周防守康英建之

月珠院

毛利備後守建之

谷中

大慈院

慶西法中

淨梁院

淨持五体力行身

勸善院

信玄

春松院

慶西法中

當照院

加賀守の利重建之

顯照院

尾崎美由之建之

明教院

新井重忠建之

休禪院

玉海守建之

一乘院

湯島行の建之

吉祥院

中野守の建之

宝勝院

慈眼大阿闍梨

泉庵院

権大信和為建之

現音院

権大信和為建之

壽昌院

権大信和打采身

為律院

觀成院

律院

淨明院

大信和堅守
淨光院に附珠下之

可基淨月院建之
増以淨正院兄弟也
始日蓮宗也

廣徳寺

廣徳寺

廣徳寺

廣徳寺

下谷

風土記云下谷岡貢之鹿免輝山鷄雄雀等又貢菓有
廣松脂江戸麻子云下谷上野之對して下谷といふなり

○下谷稻荷社 又國魂稻荷といふ世に
廣徳寺ありと云稻荷といふ也 慈雲山正法院

此本の一巻に当社下谷所従土所の内より一年下谷より出火
有る家数多味了此氏子一新し煙りては天野氏の家の幸
瑞の事ありと云々 考元始る其處廣徳寺あり遷すのり
考元三月十一日也江戸砂子三月十日と云々非なり

○三弦坂 伊竹家屋敷のあり満る多敷より入城あり
江戸砂子あり此坂の形三味館に似たり故に名あり

○長者町 往古あり下石長者のり末住のりあり

○忍川 不忍池より流る城也是より三味館坂へ流る

○三枚樹 忍川にかけし所徒可へ竹樹三ヶ所あり

里流より往古此より三味館の道増あり故に本名三味樹
あり一ツの所徒可へ竹初樹自らの樹是石樹也昔
谷中の方より水道かり細き世火のり焼失し今板
樹あり一ヶ所の樹あり世に里門あり並ぶあり三ヶ所

三枚樹 忍川にかけし所徒可へ竹樹三ヶ所あり

○不忍池 古名 藤輪津池

風土記曰藤輪津池有鯉鰻魚射鴻雁鶴踏鴨等
周行十里計程旱水不涸霜雨不為害祈所旱雨人詣
干茲所糸瀬備津比咩也

名所記云云一此道世昔藤生後い道の傍も分る

や此池より顕言して又江に流る人忍ふ事此の心
え不忍池やあり

○弁財天社 上野末のり天統山生池院 留守在宝珠院

來海龍池云不忍の池の中し所あり而天宮也 東叡山并

すの公陸つゝさき里一りり舟生る舟一舟もは是を御
こころのくわくはちんこ也

○長井堤 池の端仲可遠と藤輪津の堤のど

或は二井堤はた他長き堤とつらぬめ

○長井庄 湯まがりの池の端之そ京昔高所ある

実盛居るの地より或は二実盛の住所を江のくわくはち
此地よりつらぬ

○実盛墳 湯島下高校番力成かきり由江戸御子

り今松平氏にゆかりありては

に在るの事

格好は海軍盛衰記すあ物御代にたのまゝ実盛を北園

の討死をいふ式よに地りるるをいふは是と実盛の子

孫代に承継るるをいふは孫の墳なる

長井一系岡のど実盛盛房景房景忠実

員代に武州長井庄に住れり

○潘随院旧井 池の端 板倉家あるの角

江戸御子に此玉情随院の旧地あり好童水のあ跡あり

名水あり

○境稻荷社 池の端 原宿北の大山家院末

社傳に徳吉の遺徳を祀る事かや可みち所なり

きき多うまはるぬ
きき多うまはるぬ

○庚申堂 西坊太子作本別当 西坊後代
帝釈山宗盛寺喜室院

日本三庚申の内所謂三庚申、京に坂庚申、大坂天王寺庚申、
当所坂平庚申也

○小野照崎神社 坂平三所目 別当 坂平小野山禪林寺後照院

縁起 同當社、參修皇を崇め奉る至願と往古慈覺大師
下野大慈寺より、東野三ヶ所、五ヶ所、或花子位の如し、
瑞夢を蒙りて一寸三分の薬何れ末を思ふを納り奉るを
願ひて、此の柴汲河禪定坊と名け奉る、是等古所

を辨り奉る、此の條を各付 五ヶ所、其以、小野公、上野同、任同、
以爲高旅難 今既重位 何れも、上野旅と不 は、上野と不 任
能上野 五ヶ所、禪定坊を留守の守り、仁壽二年二月
公守野、卒去、五ヶ所、上野旅難震動、光り、中、
輝中、村光是をえて、火災あり、思ふ、禪定坊身中、公来り
あり、我灵を反む、り、夢覺て、別神美を、少照、
大照、中、宗、め、す、り、上野旅を以て、社頭、り、禪定坊を
別當、り、其、は、大郎重長、建、久、事、中、社、以、建、之、重長守
奉る、是、朝、作、の、安、何、れ、末、を、甘、ま、忘、覺、大、所、の、安、何、を、腹
託、り、實、永、三、中、東、廠、山、所、開、闢、を、時、この、為、に、奉、る、撰、り

常陸国上野国と見たり、天長より此三國、親王の
司の用と定められたるに、宣朝臣任をばさるるに、
忍ぶ者、汝等なり、陸奥守たり、司の事なり、
足利豊成、此時より、此と上野国司とをばさるるに、
此は伊の記に記したるに、上野國あり、上野國あり、
をばせ侍り、侍り、又陸奥守あり、上野國あり、
名有り、是、覺居居たり、上野國あり、
又、此、何れなり、忍ぶ者、上野國あり、
今常陸の陸奥守あり、上野國あり、是、
あり、あり、あり、あり、

或は、何れなり、
いふに、実白通長を、入道院、
初め、
よ、
の、
基、
代、
年、
事、

○金杉 北條分限帳に、金杉の名あり、久しき事あり、

金杉と云ふ多し一芝下谷少日向寺なり

○火除 金杉の内より火^除音^ハめえ^ハ所の名^ハなり

○藁の輪 北條分限^ハ懐^ハい^ハ藁^ハ輪^ハ守^ハ屋^ハを^ハつ^ハ此^ハ云^ハえ^ハ往^ハ古^ハに

家^ハ居^ハる^ハく^ハ一^ハと^ハ廣^ハむ^ハる^ハも^ハ藁^ハの^ハ輪^ハの^ハ名^ハなり^ハ或^ハ先^ハ人^ハの

記^ハ淺^ハ草^ハの^ハ藁^ハ市^ハ此^ハ所^ハなり^ハ藁^ハ多^ハく^ハ出^ハり^ハ之^ハ名^ハなり

○根岸の里 江戸砂^ハふ^ハ云^ハ名^ハの^ハ名^ハなり^ハ元^ハ福^ハの^ハ比

上^ハ砂^ハの^ハ主^ハ扱^ハり^ハ上^ハ方^ハの^ハ名^ハなり^ハ多^ハく^ハ好^ハま^ハる^ハ也

根岸の名北條分限懐^ハ向^ハり

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

寺院系寺中之神社

○宝玉山常樂院長福壽寺 天台 上野末 上野町

并山行基

分阿弥院 行基作 五番目

類聚國史曰養光廿二年二月丁酉大僧正行基和尚遷化

冥冥神駭觸類而多^ハ時^ハ人^ハ号^ハ行^ハ基^ハ菩^ハ薩^ハ道^ハ止^ハ之^ハ處^ハ皆

達道場

○妙宣山徳大寺 法花宗 正中末 同所三目

并山日遣聖人摩利支天安堂

○藥玉山一乘院 真言 直福寺末 同所有店

并山 祐照法印 藥師如來安立

○池見山 福成寺 淨土真宗 奉教寺末 池の邊仲所

善徳寺并基了意之根在野田の産也大坂奉教寺の亂の時
故如上人の味方とて族討死多し後出家 号長末江戸人

下杉浦の中を流并基とて當寺建立也奉了阿闍梨
真心作觀 号智知成室成所 安重とて了像

○高美山 敬謝寺 奉教寺末 日所也河上目

并基奉教山久壽院之而了母敬謝院殿を佛堂提

而建立とて不 紫蓮山山名院宗善寺 同末 同行 同三月 弘治のころ

并基山名宗善之往古吳州の者後湯島植木町に移り

寛弘年中當所へ引移り寺傳也

○常光山 大安寺 称仰院 淨土情随院末 同所 カヤノ目 宗善寺末

并山 圓誓重達上人 元和二丙辰年 起立寺傳湯島の内とて

○天徳山 永昌院 禪宗 妙心寺末 同所 七軒所 称仰院末

并再任妙心洞良大和尚禪師

○珠芽山 淨蹟寺 同石川 喜運寺末 同七軒所

并山 一參宗道大和尚

○願向山 心行寺 淨土 法興寺末 同所 池の端

并山 本良空無上人 江戸六地藏 四番目

○妙光山 宗賢寺

法苑 身延末

同所 心行寺末

并山

○本野山 覺性寺

法苑 甲州大野寺末 同所 宗賢寺

并山

○盛林山 大正寺

法苑 妙覺寺末

同所 覺性寺

并山 通院 日亮上人

○潜龍山 東山寺

禪 妙心寺末

同所 覺性寺

并山 快源和尚

○法林山 正慶寺

同 同末

同所 覺性寺

并山 湛水和尚

○榮珠山 妙顯寺

法苑 妙滿寺末

同所 覺性寺

并山 日竹聖人

○向國山 渡也院 忠愍寺

末 末

同所 妙顯寺

并山 渡也院 豐前守忠愍也 別在 碑有

○淨松山 休昌院

禪 宗 妙心寺末

同所 忠愍寺

并山

○靈鷲山 常在寺

法苑 宗 大石寺末

竹町 五年天神

并山 中興日精聖人

○金童山 本光寺

同 靈鷲山寺末

同所 常在寺

并山

○用妙山本授寺 同京本正寺末 同所 本光寺

○法要山啓雲寺 同鷲山寺末 同所 山下

○慈雲山正法院 天國台 上野末 山下

○円満山廣徳寺 禪宗 忍徳寺末 稻荷町

○塔院 徳雲院 桂徳院 栄毛院 梅毛院

○月峯山宗源寺 淨土宗 増上寺末 同所 塔院

○法輪山泰宗寺 同 寂勝寺末 同所 廣徳寺

○朝日山願成院永昌寺 同末 同所 宗徳寺

○本尊阿弥陀蓮慶作 寺傳云天正年中下谷長者草創也 長共所育 元和年

中下所 移 明 丙申年松浦肥前守世公永昌院殿再

再之由下谷長者墓當寺之 由江戸砂子 見ゆ

福寺に於て谷を平らにす成寺留して心の中を善寺を成りし
 河を此に於て移りしなり火災に焼く長寺の事跡を
 之に記し元より美名に何れにけり付たりとあり
 之より墓所にして長寺の墓を有る寺の下部を
 是より長寺の墓と云ふよりをりて寺の善寺あり
 境河源光院より見ゆるに寺跡をこれより大正月
 之善寺埋み合ひなり
 此寺の善寺あり

○光熙山西徳寺 一向宗 佛光寺 福成 同所 福成寺
 并是 隨庸上人 寛永十一年 教之

の常光山蓮城寺 日蓮宗 平賀本寺末 同所 福成寺

常山成就院日玄聖人

○三寶山盛雲寺 觀喜院 淨土宗 灵岸寺末 同所 福成寺

關山龍峯上人

の子安山西蓮寺 淨土宗 里名末 同所 盛持

并山高登上人 中興貫峯上人

子安大明神 寺内安置

跡縁地云柳町寺に鎮守・瀧頂の奥りよりわたりて福三年

あり通流江坪を築きしよりよりみつちと徳をもと定む

と坪の守護神に瀧頂より善忠福向牛下神 あり大正

湯島より明暦元年起年当地へ移す

秋葉社 当寺に世大震和尚の時勸請

○功德山天童寺 禪 駿州大寺末 同所清遠院裏

○龍井山白泉寺 禪 遠州長興寺末 同所天童寺

○報新山宗延寺 法花 身延綱元 高岸寺横州 遠州長興寺末

○日精聖人 寺中學成精 正理良 心了坊

○或人云奉聖天井三百四十九の一字洋輪あるに仲託書人

○空襲山大久寺 同 越後本成寺末 高岸寺裏

○日朗上人 当寺、日蓮上人 櫻掛石

○出世并天安置

○一乃頂山 高岸寺 禪 集福寺末 屏風下

○山扶嶽 大助大和尚

○法林山蓮花寺 法花 妙満寺末 山崎町

○山照應院 日賢上人

○瑞祥山 仙龍寺 禪 妙心寺末 同所蓮花寺

○山照應院 日賢上人

○山照應院 日賢上人

○山照應院 日賢上人

○山照應院 日賢上人

○山照應院 日賢上人

○山照應院 日賢上人

○山照應院 日賢上人

○山照應院 日賢上人

○山照應院 日賢上人

○山照應院 日賢上人

○山照應院 日賢上人

開山

○湯島山長光寺 淨土 智恩院末

坂本
晴徳院末也

開山

○金光山大覺寺養玉院 天台 上野末

同所

南向奉祐事のついでと不書ありて曰此寺元々大人の三
院院と不家又年中養玉院と改む三月に仁榮係を尺を
大悔と有光坊の後ありと成

○藥王山延壽院善養寺 同

坂本二目

寺付開基慈覺大阿闍梨也年中一建之奉る善養如集

慈覺大阿闍梨の作り 百慶を 運慶作 此像も有也

○極楽山最上寺

淨土宗 智恩末

同坂本三目裏

開山起蓮社高峯上人休道和尚

○此寺開山常倫院英信寺

同是岸寺末 同坂本三目

開山灵巖初凡雄上人寛永年中創之

○法住山養竹寺

法苑小湊 誕生寺末

同所

開山 本是院日嚴上人

○養光山金銀院永久寺 天台 上野養竹院末

同所 一のみ

寺付云天正年中開基直言宗空藏院と云ハ開山擁大信都

法下交聖也 寺修築改む其時中具道字和尚と云

此山野初開 永久と云人下院と云檀林 日念と云折

日蓮宗改宗して蓮華寺と号す。寛永の以前内意
より日蓮宗に依世し改宗志より由増の彈正殿と号す
御年より山莊寺と号す。天台宗改宗して日蓮と号す。及
び日蓮宗久長寺院の宮の御子より浄円院寺也
より院ありとせらるるなり

在り上品中生何所地蓮華作舟所香檳蓮蓮の舟
獲色在り不動智法大所作大蓮より作ぬち何作
希才天三解一益聖智法大所作

元三大師 解脫法大所作 秘法在り
○急水山 法法寺 禪宗 秘法在り 日蓮宗

并山 銀心列人 和尚 永正八世 大覺佛 西禪所 託穩世也

○月田山 清光院長 松寺 淨土 如恩末 同所 好本あり

并山 實答上人
寺付云 元祖 月見大所 伊勢 天照大神 其一年 宛の時 月を拜し
月見大所の御歌 何れも是れ大所 尊を執り 仰容を言ふ
かぬ御 日本一 幅の御真像 尊を御付 宝を御 佛の月の
丸を御 尊を御 号す云々

○長成山 東蓮寺 淨土 修治院末 同所 好本あり

并山 大蓮社 起承上人 鑑符 尊を御 御末
鑑符 尊を御 畧縁起 尊を御 皇五十二代 崇徳天皇 御宇 弘法大

开山成蓮社專修之團元和尚 延寧七年三月廿日寂

开基野山丹後守殿坊嘉專院殿中屋梁專大師

○喜翁山宗慶寺 禪洞家 茂林寺末 同所

开山快州正悦大和尚 寛文元年二月遷化

开基喜翁山宗慶大居士

○光雲山自然院隨德寺 一向宗 同所

开山了順

○金峯山全得寺 禪洞家 同所 抄本

开山周山全得大和尚

○台德山正覺寺 同 淡草天代寺末 同所

开山養山嚴胡和尚 寛永五年六月廿二日寂

寛永元年秋末 全杉末天 行基依 立像二尺八寸

○宝塔山感應寺 法花 後州光長寺末 同所

开山日記大 大里天 傳教大町作安室

○小野山領照院 天台 上野末 坂本也月

开山慶賢法師

○佛速山安樂寺 淨土 洛东一心院末 全杉也月

开山照蓮社賢修之意暇和尚 正保二年八月二日寂

中興一蓮社向界大 和佛 聖觀音 雷摩如末五室

○覺法山了深院 禪 妙心寺末 同所 三月

開山持翁和尚禪所

大隆觀音

畧縁起云昔年相州鎌倉巨福山建長寺開山大慶禪所
大隆長息之夢を以て此處に比美像成拜一寛元
四年壬午奉持一奉之末朝方一聖字を巨福山中一毎五
社念入其地北条高時困を以て時侯又召貞国と名号敵の
奸計有り進退其極了りてこの所隨地の字号を念誦
して終文記を造りてを得ててこの依り護持して世に
いふに即郡持事火に燒居て宗廟一末臣若原道治
当地に如坐一此寺を并奉りて是神火厄換取を以て不美像と

不時正保元甲申年十月吉了涉院始祀持翁禪地より

○佛名山万徳寺 淨土 智恩末 日所

○開山了蓮社学於上人の暦元年乙未七月九日寂

○南湯山東源院 禪 妙心寺末 日所西蓮寺所

○開山持翁大法眼所

○冥妙山善性寺 法花 慈光末客主席 日所本末

○開山日赤上人長亨元年丁未八月寂宝永三年乙酉院様

所由改修に仍て古本百石の由寺付也

○延命山地蔵寺西藏院 真言 主祥茂末 日所中札

○開山権大僧都 善喜和尚 寺在五石

○満徳寺日寺公養院 浄土 重徳寺末 新所

○開山満徳上人 汝獲の松本をふりしなり

寺付の満徳上人より世岳界上人の時寺院改らるまで

退行をいふ極まりし松もこの古木もきき古疏

まききもさうんとは美なりしものやみぬ成りてかたむね

兼ちぬにせうふ松もあつて新所榮りしなり

○神島山真正寺 禪 温泉 日所

○開山心翁和尚 秋葉権現社 出雲

○補陀山通寺 同宗 日所

○開山観月和尚 末寺 観音大士 重徳寺末

鷹見松

往古境内より元和比より西鷹見寺なりし時よりしん

西鷹見寺なりしときよりしん松はしりし羽を林のしん

上覧りし終鷹見寺得せしなりし鷹見の松と名

付せしなりしときよりしん松はしりし羽を林のしん

○運子山真養寺 浄土 日所

○開山日鏡上人 寛政二年歿之

○直覺山菩提院西光寺 浄土 増上寺末 日所

○開山聖道社賢尽上人長吉和尚 天和元年歿之

本寺ありしなりしときよりしん松はしりし羽を林のしん

沙木梅 古木 名あり木あり

紅葉 江戸に於て所紅葉の古跡あり内より五つ古木

の楓ありて多き世に知人まきまきといふ

○本立の長國寺 法化 龍山寺筋瓦 蓮花寺町

○東日乾上人寛永十二年寂 龍谷大の神

寺あり了遠院 知性院 久寿坊 田立坊

○正覺山 御音流院大音寺 淨土 知覺院末 日所

中真二可山 増上寺 七世 頓蓮社 森并上人 唐天大和尚

○東光山 等印院 龍泉寺 淨土 日所

甲山

○東陽山 正覺寺 禪妙心寺末 日所

甲山 愚堂和尚 宝鏡寺所

紅葉の名所として 觀遊の人 秋毎多き 當寺。紅葉之

下坂の苗をもち種あり

○瑞光山 月洲寺 禪 金池院末 日所

甲山 大舟禪所 大和尚

○光の山西徳寺 佛光寺末 湯原より

甲山 善如法師

○宝鏡山 田光寺 禪 根岸

甲山 杖杖大助 大和尚

藤芥天社
蘇棚

世にあり字々後より棚二十七百何々々

新編江戸志卷之三

新編江戸志卷之四目錄

一 谷 中

根津 平河島 三崎 堂沢
日暮里 三河島

一 駒 込

千駄木 鰻繩子 雑音の窪

一 深 井

西ヶ原 中里 田畑

一 平 塚

王子 瀧川 尾久

一 川 口

十条 稲付

新編江戸志卷之四

東武懷山子

輯著

谷中

駒込と上野と谷中と下谷と都て谷中といふは
昔名もあらずるに北条分限張り此名あり

○根津神社

神饌 五百石

社傳曰祭神三坐

大己貴神
素盞鳥子

鎮守年歴不詳

往古に今の駒込打角元と根津とあり鎮守也今の社地を
とて栢田様御祀さすこ下谷ありもとも唱へけり
寛文年中
中文廟所土產神々々而宮系の時神主供奉奉幣を

奉拝より其後宝永元年当社所造堂同三年正月廿日遷宮
あり祭礼ハ九月廿一日あり

和漢三才圖會曰宝永年中賜社領推現勅号ト云

神社略記曰名所記所載ヲ考スニ当社ハ太田備中守何レ時カ
建立トシ奉ル蓋シ根津トハ嵐ノ謂ニヤ是大黒神ヲ祭リシ事ニ
殊ニ天井又ハ繪馬トドニ嵐ヲ多ク書テ見エバ大黒社ナル事一
記ヤリト記セリ

社家五軒

神主

伊吹左京亮子

伊吹左門

社僧六宇

別当醫王山正運寺昌泉院

神子一人

○野中の井

又柏木の井

三崎の内町屋の井

江戸麻子云そののみ柏木といふ遊女のいりしは言し里のまをれ
おつろいふ心まけりてあつろいふを産をあらわしてことせ計りし
住所トモそのまをくちりぬその屍を里人埋りしと云ふ一掃の木
を掃て掃る所の井ト云ふ一掃知海をあらわし一掃の母そのく
いひそなるみ中の井ト云ふ掃るを掃るを掃るを掃るの井ト云
掃るの木大木と云ふ今も有也瘧病を掃る掃る者も木の元
ゆきしまを掃るを掃るを掃るを掃るの井ト云ふ掃るの井ト云ふ
是を掃るの井ト云ふ掃るを掃る

江戸麻子の井ト云ふ掃るを掃るを掃るを掃るの井ト云ふ掃るの

いふは、事とらるる相付て、いふ、依の妻おむつと、いふ、いふ、
かうり、難産に止おろす、死火故にちるておろし、死産をさく、
て、いふ、又人、おむす、いふ、これ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
七面、石神、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
○三崎坂 他、首、あり、坂、いふ、

三平、け、お、首、を、いふ、坂、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
○堂澤 堂、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

谷中、の内、二、所、り、いふ、いふ、林、ま、の、ま、り、を、いふ、いふ、いふ、いふ、
林、ま、の、内、いふ、いふ、の、池、り、いふ、いふ、いふ、又、日、暮、り、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

○いろは茶屋

江戸、妙、り、いふ、昔、いろ、は、昔、いふ、暖、簾、の、水、屋、を、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

○善光寺坂 一、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

○芋坂 感、應、寺、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

○初音の森 江戸、妙、り、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

○菅谷 日、暮、り、の、上、の、方、を、いふ、

○日暮里 本、字、新、坂、を、いふ、

此、の、本、字、新、坂、を、通、橋、いふ、秋、の、気、色、を、いふ、いふ、いふ、

船をつまこつてついでに磯をつまこつては是船頭が侍さう

○蛎壳山 道灌山の下

往古に十餘町に程さう山より皆蛎かゝ也詩にさうの所さうか
すさうの表目と真るが及一也京保御直と云蛎をを扱いて
うし肩せ海苔の胡粉製す可く思ふに運りて胡粉と云
今と大なる跡畑と云りてつらうと云つて程蛎畑と云りて胡

○三河島 日考の東

梅子の北条分限帳に三河島細々矣向者知れりや一を記す
此島北条の康の此より名あり所不國後の名一河下也

細谷とある中故三河島といふ酒井忠昌の説は地を

るこの島三つの川なりその中一有土地人三川が崎といふ
ふぬてや此説を左のうらや

○山伏松 三河島之光

果傳云云云此より山伏ちのみ死せ一と傳傳い其を
志る一は松を棟と云此松大木と云る石碑一何れと
又字のたのなるい

寺院 糸寺の神社

○日登山妙林寺法重院 天台上野末 三味

駒止より大通
三崎坂下

寺付云 甲山了性院日香上人天冬手中起之池上末也五世相
流 故有之正徳年中 天台宗つと成俊海法京 甲山より

△田中糸天社

菅沢

糸僅に地の所跡あり
糸天社あり

略縁起云 人皇四十九代光仁天皇御宇 宝龜五 癸亥年 当所

菅沢の山 甲山 一字の草をりし是 糸方天を安んずるの

甲禰を初 人あり 所の跡寺ありしを付ふ此同 菅沢

の流の下 貪僧河 式子係を祈り奉りし遂に 当所の果を以

て 皇親を拜し 弘安六年十二月内海 何某初し社を建

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

五—三の宮保三四年一連川家—社孔建三即—

△顧地死す

略縁起云當寺又云了地死す。此法左の真作し。光入屋向
感得の佛あり。来由をわす。小日向也芥持付。光の
阿光入。其夢をわす。此の係を柄持し。腰を下腹まわらぬ
佛を以て法く。別々。訪人。腰を下の病を祈り。利巻多
小日向也紅田也。何そ果男の四入を。痘瘡の煩を受て。十死一せ。其以
夫婦若。此の係を祈り。其夢をわす。不思議の口告あり。病入
の死を以て係。見り。其夢をわす。其夢をわす。病入。又其の
地死す。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。

縁起僧社念やうま。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。
其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。
住持海海の時。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。

△冥駭不動

暑海起云。延喜三丙。延喜三月十八日。秋尺。章海池田利春
紀伊の地。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。
其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。
見り。不動の王の。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。
其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。其夢をわす。

金利 石堅 神惠 佛教 授福 此德 灵贖
不動

大同二丁 庚天四月 空海

年教九九百甲ヶ年を經して今年今月出現し玉ふり首のくく人
の若信心肝、徹し別ち口寺人奉納也

△百枝櫻 三多凡く不佻人見を括り也今元木括り
若木也

水鳥坊樽次墓 当寺しり

○普賢山新幡隨院法任寺 浄土 同所 妙林寺の
なり

開山幡隨院了碩和尚宝曆四年起之開基、満口家あり元

此地、満口家屋敷也

○高光山大円寺 法花 法惠寺末 同所 法任寺先
向ふ也

大黒天傳教大町作安至

○延壽山長久寺 同 身延末 同所 大円寺の
なり

開山

○稻栄山福相寺 同 山湊末 同所 長久寺の
なり

開山 往古一向宗の由

○天沢山惠元院 禪 法燈派 勢国奉寺觸以同所

開山一峯 元太和尚

○天隨山明王院 真言 法勒寺末 同所 惠元院
なり

并山

八幡社

梅子...の正院の側の横丁へ入るに官舎の口へ出ると也

○岡住山妙円寺 法花 法恩寺末 同所 長久寺の
向何

并山 円住院日如上人 寺中一乗院 飛成坊

八幡神社 神田様所施生守夜神

○龍江山妙法寺 同 中山幡所 同所 妙円寺
の並び

并山 日如上人 伊豆大川之依 鬼子母神安室

寺中詮量院 榮樹以字詮以 正善坊 春陽坊

○立光山正運寺 同 高本園寺末 同所 妙法寺
並び

并山 日運上人

三崎稻尾北宮所鎮守 七面社 安室

○海軍山天龍院 禪 海禪寺末 同所 正運寺
並び

并山 梅岩和尚

○寂照山龍谷寺 法花 新集の顯寺末 同所 天童院
有らじ

并山 日悦上人

鎮守 愛海明王 福壽稲尾社

○宝泉山本通寺 法花 本成寺末 同所

并山 日印上人 中興の世日陣上人

○奥福山永久寺 禪 玉林寺末 同所 龍谷寺
並び

并山 風室春大和尚

坊より、永久寺の側横丁の瑞林寺より善光寺坂

○慈雲山瑞林寺 法苑 身延觸所 同所 極久寺

○日慈上人 往古神田也、何れと記之、甚く久しき也、此

本林院 本好院 辨仙院 大兼坊 正行坊

寺中 本立坊 善兼坊 久成坊 五泉坊 玄妙坊

帶込坊 瑞泉坊 惠遠坊 大輪坊

○瑠理光山長久院 真言 法勤寺末 同所 瑞林寺の内

○山法印 有意

○佛到山西光寺 無量壽院 同所 長久院

○山法下義光 当寺に在りて虎 并厚く由境内に下り虎の

石佛 景助天 地蔵之寺有り、いふに古き物也

○清林山和光院大泉寺 天台宗 光院末 同所 西光寺並

○山 高海法下

○山妙山大行寺 法苑 法恩寺末 同所 大泉寺

○山 妙院日感上人 寺中 田鷹坊

○光善山元道寺法藏院 天台宗 光院末 同所 瑞林寺並

○山 権大信部大阿若梨 堅若法下 慶賀

慶長十七年二月十五日 記之 此時神田比寺に在り 慶賀

元戌年十一月廿一日 記之 為中 移り

○培増山宝城院金嶺寺 同末 同所 法花院

并山慈眼大所 寛弘十七年記之

皇東一社金山大推現地 慈眼大所所頂也

不動了 慈眼大所所作寺あり

○大法山一乘寺 法毛 総所好光寺末 同所 金峯寺

并山日実上人 寺中真淨坊

○鶴林山春然寺実相院 后台光院末 同所 瑞林寺西 法花院末了

并山慶賢法下 寛弘二年己卯十一月十四日起之

願成并天 傳教大所は作あり

○寂靜山蓮華寺 中山末 同所 菩提寺 瑞林寺

并山日賢上人

妙守大明神 鬼子母神 毘沙明天女也

○日長山領玄寺 同身近末 同所 蓮花寺

并山領玄院日長上人 世に推の本寺より大木の推四棟あり

末廣稲荷社

南向茶話云身近山三十三世日亨上人此寺に退隱ス上人あり

塩了交の梅嶺宝曆三丁酉年十一月廿二日日亨三十三回忌の刻

花咲今例年先花咲故高師梅と称せし

○大栗山延壽寺 同末 同所 領玄寺

并基覺性院日勤上人

富増福神社

妙見宮

当寺あり

○正栄山妙行寺

同宗

熊州妙成寺末

同所

延壽寺末
妙福寺横

○顯性院日長上人 中興妙心院日尊上人

寺中 遠行院 長栄坊 常誦坊 了玄坊

能老福福社

摩利支天

大黒天 安堂

○石岡山妙福寺

同宗 京本法寺末

同所 妙行寺
横

○開山日親上人

○大乗山長運寺

同宗 身延末

同所 妙福寺
トナリ

○開山金兩院日見上人

同宗 京本法寺末

海老江戸御子大坂の虎石寺寺に在りて記を記す

此寺の石塔ありて... 何等の比より又大坂へ区けり

と也此寺の石塔... 昔招く人の程ありと云

○長久山妙泉寺

尾崎本母寺末
京本法寺末

同所

○開山

○顯壽山佛心寺

同 堀崎寺末

同所 長運寺
トナリ

○開山顯壽院日演上人

昆州開天傳教大師 作安堂

○長源山本光寺

同 塔川本土寺末

同所 聖光寺
佛心寺横

○開山

○佛壽山上聖寺

同 玉沢末

同所 本光寺
五七

○開山佛壽院日通上人

○究竟山妙情寺

白

京本寺末

同所

上聖寺
十一七

并山

○妙慈山信行寺

白

駿河美相寺末

同所

妙清寺
並じ

并山

○鶴泉山宝松院金輪寺

上野末

同所

信行寺
並じ

寺傳云觀之の年月と度との境失く依り見を失ふ并山を念法行

者之金輪大法を化陳其れ奇特を思行上中大道

日光所主より金輪寺の寺号を賜ふ神祖十三回御

之并山納經を勤ふ此の當寺に寛弘年中の觀之の始の

本所より元文寺より當所に移す也

朝日多分末 為畏大内作末

○星梅山妙傳寺

法苑相州妙傳寺末

同所

金輪寺並
善光寺坂

并山

○望湖山玉杖寺

禪

吉祥寺末

同所

妙傳寺
五好下

并山 照山養大和尚

寺末三石八斗

○楞伽山天眼寺

白

妙心寺末

同所

善光寺坂
五林寺向

并山 越叟和尚 正徳二年七月廿日我并是松平下路下流

○榮源山本壽寺

法也本國寺末

同所

善光寺坂
楞下

并山

○祝融山瑞松院

禪

妙心寺末

同所

本壽寺
陸

并山

○龍興山臨江寺 同

大塘寺末

同所 瑞松院

并山 圭山和尚

○ 妙極院

真言律 湯島灵石寺末

根津寺末

并山

○本覺山愛深寺自性院 真言

三峯 全長寺末了 教行寺末了

并山 道意上人 本寺何作院

愛深明王 中身并山貫海達之 不動 兼何末主

○光照山感應寺 法苑真言弘法寺末 同所 自性院

并山

求法雅記云同地神用之何 故 仍 神田感應寺末了

○長昌山大雄寺 同 豆所玉沢末 同所 神田感應寺 向かり

并山大善院日健上人

○瑞應山妙中寺 同 身延末 同所 大雄寺上り 谷中つの方

并山了聖院日登上人 元和年中記之

○宝塔山多宝院 真言湯手根生院末 同所 谷中つの方

并山法印普栄 八十八所并四十九番伊弉諾寺浄土寺の記

○廣濟山最勝寺慈持院 天台末院末 同所 谷中つの方

并山栄松法中 寛永十六年三月十四日起之

本寺不動了丈六坐像 朗并上人作大山同本同作の坐像也

○長耀山感應寺 天台上野末 寺在三十石
山日蓮上人 二世日源上人 中身日長上人 元祿年中
天台宗、改之

平寺 昆河明大

塔 瑞音院 善明院 正福院 了信院 田曉院
養善院 安立院 福泉院 珠院 了音院

五重塔 此塔甚大之工也 今御府内之是、請寺、之、也

釈迦杉

○長清山養泉寺 法衣 五尺末 同所 感應寺
横丁

并山

○感應山常在寺 同身延末 同所 養泉寺
並也

并山 感應院日蓮上人

○長安寺

并山

○福聚山海藏院 禪心寺末 同所 常樂寺

并山 靈梅和尚

○百丈山靈梅院 日 海巖寺末 同所 海巖寺
梅

并山 神北和尚

○長光山龍泉寺 法花 同所 靈梅院隣

并山 日感上人 塔中 常泉坊

○蓮葉山 觀音院 真言 許勒寺末 同所 海山寺

○山 尊雄 此寺の通則七面山の道也

○清徳山 興禪寺 禪宗 宗信無禪寺末 同所 妙音院 横丁 徳

○山 宗才天社

○常信山 安立寺 法花宗 本法寺末 同所 真禪寺 向側

○山 日親上人 一運祖師母置 寺中 真應院

○運立山 養傳寺 同 身近末 同所 無禪寺 五七

○山 養傳院 日立上人 当寺を谷中 當寺に

○長谷山 加納院 真言 許勒寺末 同所 養傳寺先 行事

○山 法印権大僧都 寛政十三年四月廿日 夜 寺の河内院 十八所の内 廿三番 伊予子 石地寺移レ

○妙見山 本龍寺 同本國寺末 同所 加納院隣

○山 日惠上人 相馬時門 寺本 寺妙見大士安置

○寺の側 坂下 山邊を此當寺と云ふ 且先堂像 也此坂を下るに宗林寺の寺あり出也

日首春里也寺院並寺中之神社

○日照山 長明寺 法花宗 本國寺末 三海右田寺横所 引入

○山 日長上人 寺中 蓮行院 常講坊 長栄坊 了意坊 左かり

○妙祐山 宗林寺 同宗 本國寺觸頭 同所 長明寺並

開山日辰未 寺中惠院教明院 山龍院 蓮院

江戸初め、当寺境内を堂作し、由記あり、此あり、
里人、凡て此世を堂とする堂作し、堂作し、

○長身山立善寺 同宗下野他野妙顯寺末 同所 宗林寺向

○瑞應山南泉寺 禪心寺末 同所 立善寺末

○日遠山妙隆寺 日蓮宗 同所 南泉寺末

寺傳云、開山日遠上人、往古谷中田林寺、境内借地、寛文六年、
起元禄七年、堂所へ移し、由也

日暮神明社

寛文六年、当寺人勸請、寛延元辰年春、当社を山上に建之
日暮山の里にあり、書に、、当寺に、先住書、社に、

当寺境内の庭、寛延の祀、社に、山上神の社、坂を上り
て、道、曲折し、橋、木エ、遊觀の、人、

○運啓山修性院 同宗 又延末 同所 妙隆寺隔

○日蓮上人 慶長六年 遷化 山上にあり

聖徳太子を、三十番神、山上にあり
当寺の庭、宝曆二年、道に、石を、お、奇、
花草、時、向、を、社、に、、坂を、、の、、

志るなり 四時の莊觀人跡たりのり

○淨居山青き寺 禪宗 妙心寺末 同所 竹杖院隣

○^{勅詔傳授智光禪師} 并山白瑛和尚 宝曆年より 坂田あり 并基

并大天社 江の島を據り 岩窟をたぐり 一寺に 徳也

觀音寺 山上より 一觀音の鑄を以て 奉造り也

秋葉社 布衣袋を 并大天社 惠比須 大黒

日暮宮

是寺の社より山上に 安部や 明和の比より 境内を切り 庭を

作らば 道を通し 山上へのあり 善信の危岩 群集するなり

○法輪の照遍院淨光寺 真言 世馬寺末 同所

并山 行基菩薩

○諏訪社 神祇五石

江戸村あり 信且 諏訪法皇より 大の神 勸修寺を 建立し

代建主の中 鳥居田道 滝野内の 神守の 寺あり

人磨社 坂阿作の 像也 善信の 内孫也 此神 神あり

薬王寺 宝曆の 年あり

○補陀山養福寺 同宗 同末 同所

并基 水食 義光

諏訪社 百觀音あり あり

当寺境内に 自臨濟 活先住 從北華坊 碑あり

○寶珠山延命院 京州顯寺末 同所 世に石中

○開山日長上人 慶字元年歿之

七面社

社傳云慶字元年三反局甲州七面山へ十日籠七面明神の感得
鱈一枚を得し歸府於其社を建之也字其鱈より延命
院の号し嚴命の名付く祈禱を依りての子を成衆也
水戸家より百石寄附あり

○大黒山經王寺 同宗身延末 同所 七面門前
横あり

○開山日慶上人 大黒天 日蓮上人作也

○長久山本行寺 同宗 法恩寺末 同所 經王寺
隣あり

○開山明禪院日吉上人 大永二丙戌年歿之

三平香神堂

太田道灌平河の安幸の妻也則宗祖日蓮上人の开眼あり

道灌物見塚 筑波上人碑あり

境内より渡り三平汁を文程より丸山より世に大塚七

ツの内あり

○如法山長善寺 同宗 十溪末 芋坂

開山

○自然山妙揚寺 同宗

開山 妙隆院日鏡上人

追加

○醫王山東漸寺

禪宗

谷中

開山

○本覺山宝光寺

真言

同

并山

疑々本光山自性院の事あり

○大道山長安寺

禪宗 海禪寺末

同 笠守極前

并山 老山和尚

元養堂より嚴公比より寺地

○觀智院

真言 群勒寺末

同 谷中三峰頂 永久寺前

此寺之所を去るを為持火埃人より補之

○長盛山法略寺

淨土

三河島

并山 光蓮社明谷善海和尚

○清滝山觀音寺

真言

惣持末

同

并山

○密嚴院

同

并山

○大光山宗福寺光明院

淨土 増上寺末 道灌山下

并山 清蓮社淨養上人

本寺 楠阿比陀 行基作

○天龍山正覺寺洞口院

曹洞宗 徳寧寺末 同前

并山 肅洲和尚

并山 天社 道灌守本尊

○阿照山仙光教院 京智積院末 三河島
并山

不動尊 良弁清印作

○宮地 稻荷 三河島 神主 岩本但馬

駒込

江戸砂子云日本武尊東夷征伐の時之... 味方の勢を
而覚し之扱に駒込と云ふ... 名付... 根津橋
親... 出たり云...

或説... 江戸砂子... 伝... 也... 古代... 伝... 伝...
珠... 山... 望... 所... 駒込... 花...
牧... 所... 也

好... 以況可... 中... 駒込... 昔... 牧... 地
北... 限... 帳... 駒込... 名...

○駒込稲荷社

求源社祀之元根社也地主の神を根社の社より成す
事して所鎮守あり往古所鎮守也清陽院後代下谷所
御まの所鎮守あり

○神明社

駒込本村

司馬

聖徳院

社光山久泉院

神傳兩宝

三童子

聖徳太子御長一尺五寸あり

駒込鎮守

江戸所子之当社文治五年源頼朝公出陣奉衛征伐の時天

夢に徳義の生長と傳とて交る求の御ふ此の松大徳

加^れ御まの依て神のを多う

田畑ハ情と同けの建立即ち此中神とし初^め4年と志す

計りありてその安手^り一^つ故冊故守直利^し再且^つ所^り也

○浅見社

比称敷止富士

上ノ末

瑞光院真光寺

祭所敷地におあり

江戸名所記に云く当社昔本御の地^り山の上^り大^き一^つと云

元^は六月末^のころ^に人^は氏^を元^によ^り必^ずお^りり^し依^り

富士^の地^を觀^望し^て不^田地^に加^る家^は何^れも^の地^に何^れも^の寛

永^年の^地移^りも^の毎^年六月^の朔^日に^あり^し也

○大筒社

足高社

唐屋扇

麦藁蛇

五色酒

曾我兩社下浅見社

○勤坂

目赤坂をいふ或は不勤坂の畧なり

○千駄木林

九十六町年なり

紫衣本... 昔一日... 千駝の薪を以て... 能く又を田
道流の抱き... 林河梅嶺... 不多く... 能く又を田
いふ... 江戸妙子... 又或老人の... 妙心... 妙新...
護摩の木... 千駝木... 妙心... 妙新... 也

○黒塚

江戸妙子... 追分東の角... 黒塚... 昔の
江戸... 追分... 黒塚... 昔の

○鰻縄子

追分と土物店... 昔... 黒塚... 昔の
里流... 往古... 追分... 黒塚... 昔の
昔... 追分... 黒塚... 昔の

其ま... 追分... 黒塚... 昔の
追分... 黒塚... 昔の
追分... 黒塚... 昔の

○雞声の先

昔土井大炊頭... 利勝... 追分... 黒塚... 昔の
昔土井大炊頭... 利勝... 追分... 黒塚... 昔の
昔土井大炊頭... 利勝... 追分... 黒塚... 昔の

○朝日山王社 上野之新所也 神主 大江野河
社傳云往古より當所禱事して未だ市をまつといふ百姓の地也 鎮守
なり元文五年八月より今の神主の父大江右とそ社司なり也
享五年甲子四月奉社細所造又匠史明なり

寺院 并寺中に神社

○既成山光明院 願行寺 浄土宗 智恵院末 追々横川三ツヤ
開山 真蓮社 諱 蒼久 東風和尙 江戸品川より人 慶長五年
三月廿二日 最古寺 品川願行寺より寺也 江戸人 住職の時 兩寺
よりより馬喰町より上寺所に移り 天和元年 四族の故地に移
り

不動尊 大山 同木 同作の寺係也

○無降山 西善寺 一向宗 本寺新寺末 同所 西側
寺傳云 寺基より 願法所 住性 出孫 阿人より 寺を 居る 寺
名 享六年 六月 廿二日 江戸 東本願寺 故如上人の 馬子 子と成り

元和二年多子起立东春院宣如上人より寺号と云ふり其院

山西長土より早行の寺

○親縁山北池院正行寺 浄土宗増上寺末 同所 西行

并山倉名蓮社専修念通和尙

○湯島山常光院浄心寺 同 同末 同所 同

并山到卷上人奉子阿比陀専心作地化子蓮慶作女主

○城照山法林寺 法正身延末 同所 西行寺末

并山 子女息女母の女主

○高耀山長元寺 同 同末 同所

并山 領玄院日長上人

○覺性山浩妙寺 同 西行末 同所 西行寺末

并山覺音院日蓮上人 七面社 三番神 出立

当寺、太田通海の石碑有り 并是太田家也

○万年山勝林寺 禪宗妙心寺末 同所 浩妙寺

并是勅賜禪所弘法禪師

○淨土山十方寺 浄土宗空寺末 同所 西行寺末

并山水食田養上人 地化子カ野首主作

○大智山海花寺 禪宗法永寺末 同所 西行寺末

并是勝菴最大和尙 天文廿三年七月十五日没

○一向山専西寺 浅草門跡末 同所

并山正入洛陽人也本願寺東春院明主比江府下竟
永三年乃宣神田湯島三寺寺主起立之明曆四戊戌年四月
九日辰自享年中令地一移由寺傳也

○法照山顯本寺 法花會集時法寺末 同新

并山

○桂芳山瑞泰寺護念院 淨土智慧末 千秋本七軒寺所

并山光蓮社勝卷上人桂芳和尚寬永五年起之

地孔子 本食上人作

○千年山榮松院清安寺 同所

并山榮松院殿心養清安大禪定尼

○東梅山陽花院清和寺 同宗情隨院末 同所清安寺並

并山長蓮社觀卷上人祐崇大和尚

觀音 江戸三十三所之内十一番

○天昌山松翁院光源寺 淨土本誓寺末 同所清性寺

并山

大觀音 長谷摸立係一丈六尺觀音千佛佛常念佛

江戸砂子云自享比江戸町人丸屋吉兵衛卜云者建立卜云

○灵龜山大保福寺 天台 上野末 同光源寺並

并山

御朱印二百五世佐石垣寺了不

○松龍山惣禪寺 禪 法福寺末 同所保福寺
向側

開山 日山春大和尚

○幸福山 田成寺 法苑 同所 惣持寺 孟

開山 日性上人

○一心山 尊念寺 正定院 淨土宗 智恩院 末同所 田成寺 並
開山 念蓮社 尊念上人 無的和尚 昔下谷地 瑞之 天和年中
此地之移也

○覺了山 清淨寺 世尊院 天台上野末 同所 尊念寺 並

開山 梅僧 御惠若 御奉命 三百五

或云奉命 三丸振 御殿之賜 建之故 寺院作 此之棟 似
之銅丸 亦少此 明乎 之世 身院 亦之 何之也 又云 佛具 亦

不殘 葵所 紋片也

○威德山 大恩寺 法苑 中山末 道分

開山 寂靜院 日賢上人 日蓮作 大里天

亦天 運慶作 昆沙明 天 傳教大師作

○福壽山 大林寺 禪 高林寺末 同所

開山 嘉山 春悅 大和尚

○大覺山 淨心寺 法苑 法恩寺末 竹所

開山 日增上人 寺中 実相院 養玄坊 學成坊

寺傳云 太田家 譜之 淨心院 日海 禪尼 者 北条氏 綱 廿三 太田源
公 即 資高 室 新公 即 康資 母 公也 當 寺 天正 十九 年 九月 康

資為母我江平川口創之其後神田に移之今丸山云
宗祖大士自作像 天下り穠荷安至

其東治記云永福元年正月里見我私並太田三景之北条氏
康其子氏政總州同府臺ニテ合戦シ里見太田亦敗軍太田
源六郎高兄弟三人北条家ニ従ヒシガ此度同苗三景一味シテ
大ニ奮リカテ屬シ覺太田下野守ヲ討取殺入源三郎カ妻是ヲ
悲シク尼ニ成リ菩提ヲ吊ル武州江戸神田淨心寺ニ彼尼達之
之別彼尼ノ本像ヲ立合ニ有リト云
按此説ト寺傳ト是夕相違也何が是ト云ヤ然レトモ寺傳
ノ説ヲ好シトスニキヤ

○本誓山常換寺 法花妙滿寺末 同所 妙所通淨心寺
後台也

○日淨上人 寛永年中移之本后四月ニリ

宗祖大士自作大里天安置 佛諸師雪中庵嵐雪墓アリ

○金竜山大円寺 禪 後林寺末 今 常換寺向側

○久山正雄大和尚

○正任山福相寺 法花身延末 鶏寺ケ窪 妙清寺ト云

○本山廿二世一如院日童上人

寺付云天正七年己丑起之初下谷ニリ寛永年中

上野の境内ニ入故代地トシテ今ノ所ニ移サルト也開山隨文ノ

像 錫忌日親上人作并運ノ祖師安置

○醫善山妙清寺 禪 通玄院派 同所 竹下氏
ケイセイカクボキ

○山勅賜大峯佛雄禪師

○華何如末安宅 春日休 俗名凡某何之

○大兼寺 水戸久昌寺觸以 同所 福相寺 ヤラビ

○山日蓮上人像 日法作 日朝上人像 眼病
字瘦 叶稻荷社安宅

○朗昌山蓮久寺 池上末 同所 福相寺 向かり

○山池上土代佛兼院 日惺上人 慶長三戌 戌年七月十日遷化

寺付云天正十九辛卯年 起之 初之 神母明神下 地ヲ五ノ宛

永元甲子年 谷中東寺川 移ル 元禄十五年 癸未年 又

当所 移ル 上ノ也

○善童山清徳院 源 常德寺 淨土 智慧院末 土物店横町

○山基貴 誉上人 万量和尚 寛文二年 叙之

身代ノ地藏 御丈七尺余 真心僧都作

寺傳云方二也 轉誉上人 重病ヲ受テ 半身痛シ 右ノ眼腫レ

既ニ盲トス 常ニ信ルル 地藏尊ニ 祈誓ヲス 時ニ十月 晦日夜

是ノ夢ヲ得テ 其明ハ日ヲ 眼ノ苦痛ヲ 遁レ 半身ニ心マ、也

是ヲ尊像ノ 右ノ眼腫レヲ 辨メシ 給リ 是レ 諸人 辨スル 処也ト云

○白花山養源寺 禪宗 妙心寺末 同所

○山 秀嶽 智和尚

○慈雲山 德源院 同 海禪寺末 同所

○山 無礙淨光禪師覺卯大和尚

○光蓮山常照院正念寺 浄土灵岸寺末 土物店新道

○山 三卷上人諱岩和尚

十一面櫻觀音 江戸三十三所、廿二番

略縁起云 越後国妙香山、藤関山と云ふ所の櫻の拵より出
現し、其灵像也 昔越后国戦国、時國中、寺院兵火の爲に
灰燼となり、如何も寺の僧々も、其像を自ら造り、
つとむるも、其像の御々を、其像を隠して、より、よひ、
し、其像の光の放す里人、奇異の思を有し、其像の傍に菴
を建て、其像を安置し、其寺を、其寺の末、同所、正念寺

の昔より、其像の御々を、其像を隠して、より、よひ、

○増上山三行院潮泉寺 浄土増上寺末同所 正念寺 向側

○山 門卷上人 七観音 縁引地花石佛

○本然山淨天院德性寺 浄土寺末同所

○山 二厨寺秋会上人

身代り地花 惠心地花作

○金峯山高林寺 禪宗 孝良村集福寺末 同所

○山 桂巖宗嫩大和尚 慶長三 戊午十月 叙之

寺中 真福院

○地 久山法藏院天栄寺 浄土 智恩院末 同所

開山行蓮社信譽入西大德

本尊 弥勒 行基作 子育地藏尊

○梵光山田林寺延命院 天台 上野末 同所 天竺寺向 淡番所

開山 豪全法印 亦才天慈覺大師 江戸百社の内

蘇田稻荷社安堂

○天澤山龍光寺 禪 東福寺末 同所

開山 虎伯和尚 伊勢 龍光寺、別院也

○東光山定泉寺 淨土 智恩院末 同所

開山 廓泉上人 聖觀音 江戸三十三所の内九番

○大聖山南谷寺 天台 上野末 同所 勤坂

目赤不動尊 八官所穀豊稻所旅所寺内

江戸砂子云当寺存す、伊州赤目山カニ世万行和尚圓因の時

當の誰も知所事して、係を授く、後當因助也村の動

改、草庵を法び不動尊を蓮平、彼授り、係を胸中、

納す、赤目不動、其行然、寛永の以、所慶社、中、所成有

て目黒目赤、對して目赤とあり、釣糸、何れ目赤

とら不耶

○安堂山福壽院養昌寺 禪宗 慶養寺末 片叶

開山 明山 密大和尚 禪師

○東向山大運寺 淨土 幡隨院末 同所

宗 願 卷 之 八

○金剛山円通寺

禪宗妙心寺末

同所

山三任妙心勅謚佛海慈雲禪師海洲和尚

寛政の辛未年記之

○諏訪の吉祥寺

同上永源寺末寺竹五十后

同所
左邊寺向側

当寺開闢略記云長祿年中太田左工門大夫持資江戸所城

営可有とき井を掘りて井中より吉祥の文字あり金印を

得たり是吉瑞ありし寺を并辟して吉祥寺と名付し

其寺和田倉の内有て諏訪明神の神地ありしゆへ山以

諏訪山と号す并山に青巖周陽禪師あり天正十一年卯年

九代元照和尚との地面よりは築築して大勢の衆徒を禪宗

道のたよりありしゆへと替地を新ひ神田邊に移し今の水道

橋のその所の裏門の村あり故に今の村を吉祥寺村といふ毎年

二月より所告例といふ吉祥寺の役寮學所跡あり登壇して

法台より元照和尚日登壇有りが故に夕立して牛馬の

鳴寺のゆの由勅命有りて地の日の中夜物を祭まつり

しとて城の時此の夜物を祭つる今村を吉祥寺といふ事新明

三丁酉年一助止むの地に移し学寮に三十軒塔頭五ヶ寺

衆徒千七百余人ト云

○金地山功徳院蓮光寺

浄土智恵院末

同所

开山 尊峯上人 寺中 天誓院 専祜院

○平松院 放元寺 一亩宗 東本願寺末 同所 神の寺

开山

○大尊山 長源寺 同 同所 富士

开山

○見海山 江岸寺 禪宗 高林寺末 同所 富士

开山 白洲 龍大和尚

○明窓山 天然寺 淨土宗 聖徳寺末 長源寺 下村

开山 然如上人

深井 西ヶ原

往方此地 地名多し 北ヶ原 限帳 是ヶ原 是ヶ原 西ヶ原の内
も 深井の里 詩家地名 歎 深井 或部 其
須味の 詠 予 文字 假 但 俵 春 墨 其 遊 禪 達 賞 花 の
詩 有り といふ

西ヶ原の北ヶ原 限帳 是ヶ原 内ヶ原 田畑 其 其 北ヶ原 家の
田畑 其 田畑 中 里 皆 同 所 あり

○深井の修壇

四時 花 実 の 遊 観 たり 梅 其 跡 寺 の 内 一 候 神 ぬ
精 教 宗 の 天 冠 所 紅 白 其 跡 此 寺 の 名

産くし煙を織りたし、似たり牡丹の富平きき千種の花付の不
淋しきまじりの相葉そのまきみゆめつくりをうけまきか
霧島元薩長霧島山の産木をまきし霧島を名けし
まきまき元正保年中薩州より撰取ち好く初をまきし
木をりて五本より五知一のがけ珍貴の何よりまきを富
士山麟角 西向 無三唐松のまきし 富士山 麟角の二
本は大内の御庭に植らるる三本は明暦式西申のまきし地へ下
し今をまき百十五六年のまきし

○深井山阿弥陀院西福寺 正言無量寺末 西の系除井を
ちき 阿弥陀 塘一ちの作

正一位稻荷神社 古より稲荷まきまきの徳守なり

長者お稲荷 聖天社 八幡宮 花壇神

牛頭天王 地藏寺 正法大師作

○深井 稲荷の御説くは住古より是を深井りし今

埋て強うけり形跡あり此井のまきしまきを深井とす
此寺より又おろせし西の系のおまき一目に深のやうに深景
言成ふつくり深一の住侶のまきし加徳の正徳院を兼帯し
て安産の神符を説く神りまきおまきしまきを深井とす

○明王山不動院 真言 同断

本尊不動尊 弘法大師 正徳別当城官寺兼帯

○佛寶山西光院無量寺 真言

同所

可山 行基菩薩院 并基一一一六十一年一及古跡有

六所跡地 三番目 行基作 跡寺長福寺より一寺保免寺身を改むるなり

觀音 西園三十三所の後

嘗て家所自筆の所存寺あり安んじし人敬ふ之

母衣梅 亦ぞら也 阿陀陀をのち行した木の梅也實の比

所成り折る所實美なり母衣梅の形付せしなり也

○神陀山 昌林寺 禪宗 銘泉寺末 同所

并山 勝菴 昌大和尚 本寺地花尊 専心信初作

末木觀音 行基菩薩院跡刻の折下末木を以て

刻るも本寺也 往古を補陀陀寺院と号し應永年一昌林

と名僧の中興せし昌林寺と号し同十八年鎌倉持氏の母

書ゆ信七間四面の布を建てて文明年中一太田道流

二十四丁の田を身所あり 大永五年火災依り寺院灰燼なる

あり 江戸あり見ゆ

寺付云 教皇寺本寺の所跡地寺有り火災の

失ふるなり

○光明山 同勝寺 淨土 増上寺末 寺依五石 中里

寺存云 寺寺五石の國の時火災出た時此の口邊に

也 其地を五石寺と申す也 寺を世に比翼寺とす

此翼鳥当寺し今在り也

本寺所由地 為堂作 脇ニ菩薩 五石作

勢至寺 淨陀三尊 虫を故りて 聖至寺と云ふ由

所腰掛松

寺付云慶長の比所腰掛の町立寺を為して腰掛せ

らるる一町五石の出来りて云ふ。又此寺を掛

る

○称念山仲基寺 淨土宗坊上寺末 上田畑お

本寺雷除阿弥陀 傳教寺何作

○和光山淨仙寺不動院 真言 同所

開山起立手歴々一と取地一のなるは寺付也

○藥王山光明院 同所

本寺の多份如末

○普光山上台寺 法苑 同所

開山上台院日灵上人

○西宝山阿弥陀院普明寺 下田畑村

本寺阿弥陀

○白龍山壽明院東覺寺 真言 些末寺末 同所

開山行基菩薩 本寺不動 弘法大阿弥石仁王有

九品佛二番目 八十八所移レ六十二番目

近義是を城の清地ニ奉崇御經を埋土社を建て御三人の
御影共ニ納め寺に依り今ニ鑑塚ニ社のははり本此地
阿彌陀如来の流紫出馬寺の中子有梅壇師長一尺毘首羯
尸の作也則ち基坐を瑪瑙の玉坐也中興安馬寺に住僧
回国修りし御け寺に旅宿所如來磐石の如く一と動不
是に依り舊堂を本寺を附置し菴を安馬寺と号し
實に此新に城を築きしけり

江戸所より遠東の北山川城官と云横枚を寺所の人也年
々仕へ奉り君臣にちり一とせ不例有り附城官の
成社を言ひ當社に而全快のは教ををこえたり早東は横

嫌業にちを忍ぶと流しをす君一而神代は寺附有り
城官を所領をり一とせ附城官社改修す又名卷の
人奉玉を言ひて城官を改修す一とせり山川氏の末葉
今し何り

山川横枚城官に三百石を賜り内百石を當社に奉附り
自分二百石を領す今の山川下領を祖也横枚に石
碑一此有り

按てし求海社記の記是に矣即昔の横枚の寺
の子に首目厚十四五丈の以常に天下奉すといふるも
此記所成に何田の字をて天下奉すといふるも

君御とせらるゝにけ月目り吉瑞之事なり上
意ありと君を寸ぐに市井へ居りては城守の事
當にちきせらるし五柞石を以て此後不傳おし居位
城守にき死後之跡をたづねのちけきとて五柞石
を以て神守塚に奉りて城守寺を傳道せしめ
況に江戸城守の説に何と見るとくち記
城守人より名ぬる

○白鬚社

平塚、畑中、鎮守
祭神、猿田彦命

薬王山光明度持

其勧請の年月を以て疑ふらくも豊島城の築より一平塚
城守に狂古なりと云ふ

○あがきむの杉 白鬚の神木畑中ニ有 其枝葉古松の如
遠くを打りて是を招きしむ杉なりと云ふ故に名付く
と一名松杉と云ふ

○犬追物旧地

東武編年録云正保四年十一月十三日王子村所成犬追物上覽
松平藩守先久兼之云
林春齋犬追物記云此所江戶城を去事二里むら
平原曠生の地をえり故鷹の御狩場を以て御居たり
と云ふなり其所を撰ぶにけりて撰敷を所居すの南
二河東面四十石間南此十二間南西の中央に上壇を構て御

中前より棟敷の南拾二間を隔て馬場なり其廣を東西四十
二間南北四拾間なり四方皆竹を以て埒とゆふ埒の四方拾八間を包の砂を
地の下より五尺七寸あり埒の中央四尺拾八間を包の砂を
まきし馬をまきふは是を掃示といふまきしを掃示まきといふ
中央に長十尺の守扉を築き四方計りの田をまき是を包の繩といふ
内を砂をまき満ちて埒といふ埒の坤の方より是を大塚の口といふ
築の方より是をその方の口といふと轅つといふとあり下略

○御殿山

寛永の以前居たりし村の名を不

○平塚城 寶壇塚

平塚神社の古
服 畠中より

恒吉や高氏代々の居城の跡なり寶壇塚といふ所の寶壇跡とい
畑中より計りの地を築き

鎌倉大竹寺に云文明九年正月長尾景春一時武州を治す
任人車馬助解由左用つ同和十布より石神井城練馬城を
取立て江戸の城の直路を切取し四月十日大田道隆に
討しし豊島平太夫が平塚の城を包みて城外を放火し
ふに豊島平太夫助解由左用つを頼りし石神井城練馬城
出攻来りし大田道隆上杉刑部少輔千重自嵐以下江古田
原沢袋と不所し馳向し合戦して豊島平太夫の討を却の板橋
毒原下百五十人討死し下略

同平山月廿五日右田道隆豊島郡由左削つる小塚要害人
押寄せんとも其殿後流して敵於凡子城少机城といふ事
持し、豊島氏に往古より此處に住して代々豊島を左削つと稱し
天正年中此系に属す小田原の籠城の時終に没す一は所を
も退去のよし今板村赤塚と稱すといふ事豊島氏支流なり

の一里塚 平塚の神の迹所

左に大木の榎三株あり一株は元文のころ邪史の爲に焼失
し一は一株ありて一は

関難間記に曰慶長九甲辰年二月九日有勅命東海道及越後

奥羽取路一里塚を築かむ五月下旬急に成就す或言此時ノ
奉行榎木、松ヲ植むと請フ御許アリ、或言賢慮者テ餘ノ木ヲ
可用音節説有しテ轉語誤テ榎樹ヲ植むト云々

○飛鳥山

此山古よりいふ木多し、古くは字保の末、京せらまて榎取
樹を植せりといふ事あり凡そ京たててかきぬ、燭燭たり
盛つる白を跡をかくるを疑ふちりうたの木、凡そ、空を
らさぬ、香のあつさるのみ、やま、ま、入ま、まの、ま、文、
た、ま、た、り、山、か、ら、や、ら、ん、と、ゆ、ま、ら、く、東、の、そ、の、
豊島川東横より其山に於のみえりといふ事あり、お、り、く、

やむをて一むらの林樹生茂り木の多きところ若一王子の
宮居朱・白垣と名へていへり一なる方神 川流清
く松吹凡水音和 醉客の歌い舞ありやま具あり古刹
西き庄周の烟打つてき 菊貴の行をいへる農夫牛馬の画を
繪す 桃李物心と人 吾雀の づり雉子の焼酎とあやう
なと帝中の人めらう一と一縁めりぬら一と一元文の比る局系
の傍りよふ来りて短冊と南ふ老夫りて一山に風詠す
飲もしたんきく一ありて吾毎、身も寛保。比るがんれ台覧
一し備(ま)り白銀をとり一あり世に足ざくおやちとよむまぬ
ふの飛ち心の内よりある方と殊に古本後集の一むらの所より

わつ天の森といふと待りては森の内、むら 飛ち社より一あり
ん今に王子権現の末社より寛永の元鷹野の舟儀、雨より
一くもは森、雨ありちささる一と也

飛鳥山碑銘

惟南國之鎮曰熊野之山有神田熊野之神矣伊弉册尊也
既祀伊弉册尊事解王子或稱之曰神事解別為飛
鳥之祠三狐神副馬語有神央中別稱威馬語曰在
昔元亨中武之豊島郡豊島氏祀北豊島郡為熊野神社
地之曰王子山之曰飛鳥 蓋自此始也熊野川曰音無川流象
馬、爾東四百有祀上人以肯祀之如一日矣祀典曰熊野之神

春以花祀鼓之吹之旗之歌之舞之今之王子祀日鼓吹旗歌
舞者其來也尚也而世之邈初宇荒壞風日不蔽越暨寬
永中有司奉命祇節祠事乃因故址新之遂迂飛鳥祠
於本祠飛鳥山有名無祠者由鳥三狐祠僻在北麓云今
茲下已春三月巳亥我右者畊之次規土封飛鳥之山独給
祠無所興永屆奉祠者徵箬茶奉祠之蹈舞捧于誓
于敬風之曰放糴我右事神以誠治人以明堵則正施
則行以謔樂則為神之鄉神其不敬明惠惟馨如飛
鳥之山蓬顆蔬壤雉兔徑焉車管之肇從紀庸表也
有司行邑吏容然谷道泉深學硤勞確涸而旋乃

植花木數千株內成遊觀外便芻芻雇役數千人二紀之久猥大
為美上花木亦為林每春芳爛燠焉豈惟種善禱乎平祀典所
謂春以花祀者冥契會之奇非邪抑亦國家之符也遂鑿千
石以表經銘曰縣邈洪荒有神開國承跡南紀東土是
祀明夕我后未封其城神之春祐豐穰庶焉至本支繁下
衍其慶豈億八披懷仁神祇靈佑千歲懿範之不見勤

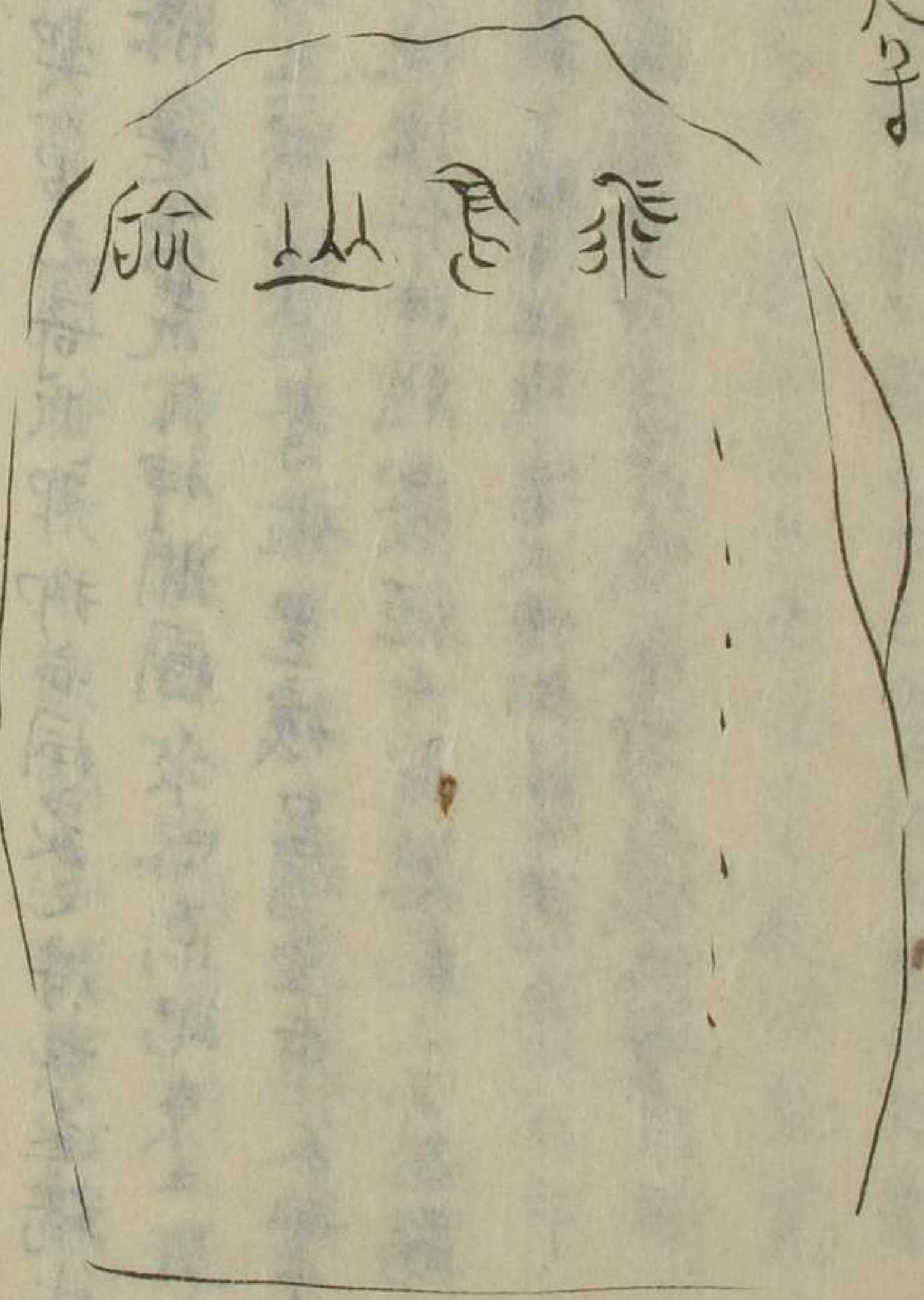
元及丁巳之秋

奉祠金輪寺住持權大僧都府衛大
東都圖書府主事鳴鳳卿代撰梓書

高上階了りて尺子

幅六尺三寸

碑石高



飛鳥山四至傍示

自良至坤 七十三歩
自至至乾 二百二歩

飛鳥山記曰元々四里末年飛鳥山の志を冷泉のまのらせし

抄の村なる色をせむに飛鳥山の所を志し

この傍筆を金輪もけしけり

の岩窟赤天 流野川 別言真言流河山松橋改令別寺

略縁起に云く柳山と云はる所此より来て柳下にて不動

尊像を彫刻し石の上に安置せし石を不動尊影向石と

名付たりし里人来て水をひて飲むに流病を患ふ

と又傍の窟に傍りし松樹赤天と名付し此は天何の作也

古く此所を水と云ふ鐘余の大通りたる路のみ有る

流泉の比原朝公石柳山合戦の地也来てふる赤天

豊田

○逆川 石神川

其流石神お之家院の西を流すといふ所ありて其の東に川へ流る
一と云ふ西へ流るる中より名目王と稱するありて其の東に
へ流る細川なり

○純品大の神社 中島島お 神主 鈴木多門

社傳云々多神五十難命一と云ふ左に是と稱清の角

○送王山 清光寺 山内お常史寺主 寺主島お

南向奉流云々往古より清光建立せしむ清光寺と
いふ事古代々の善院所より康宗清光衣冠の像

何れを先年自火を燒失し向清光の松を大木の杉一株有り
也是と云ふ松

○握原屋敷

江戸初めに云乎握原の所よりなる山の麓あり

○握原塚 此の山より下より尾久の方行く畑の中

〜畑の中、松三株ありて一は地蔵、昔石碑ありり
〜何人の盗りて也こゝを握原塚といふ也

握原、大塚握原は曾父の内にありて其の地也鎌倉大

寺あり康暦比握原は其の地なり

其の地なり其の地なり其の地なり

齊多も握取成を健きて天文の比武州を去り居居り
ふたふた疑ふくもは政景の持るる

○経塚 尾久河の魚川にこそ一かお記のし

里許の長谷寺の寺に奥の海邊也経を肩つて僧の行方
を死しむる埋ぬる一棟を括し経塚とす
又大途を外記のしむる一實永の以は所、於未の記
いたる者河の河馬を川のまゝとらるるをふれぬるひ
この馬あり川にさし又ふた何のたら川中よりお記の
泥をふし水中へ入いじつとすりよん見ると大龜を
りふた河に數百のや泥龜の所へれを外記のた龜

の首、繩もひ付水中をぶら下り陸へ上るとの事といふ所の
ニ千人打よる泥龜も川上はたのたに 常は肉を食
その泥龜の甲をを油つて是種かへ送る、米を石とす
入けしそ大泥龜を食せしものも若熱病をもやみ
者多し外記の孫つる絶けし也以獲の途を外記の
おし今いふそ

○阿遠院 真言此寺未尾久

○間廣寺 同所 魚川

追加

十條

王子村の先取天正の比、小乗成政の臣老屋何某の記
地

○地福寺 真言宗 真頂寺末 十條和

○地花坂

往古この坂の邊に地花をとりし所あり

○遠屋塚

地花坂の邊よりとりし所、天正の比この所の地を老屋何
某の墳形大成松一株をとりし所あり

を多松印とて白き墓とてかゝる今と海
や一ありあはるる所とてさるるなりと印

○普通院 真言 錫杖寺末 稀付

○自得山静勝寺 禪宗 洞家 同所

太田道隆 開基のより 任古地 道隆 坐落の跡ありとて
道隆の墳あり 本傍あり

○法信寺 日蓮宗 稀付

○真頂院 真言 錫杖寺末 希羽根

真

川口

源順 和名鈔 多摩郡川口 加波とありこの時 多摩郡の

内即ち又ありいと古き地あり

○法幢院 真言 錫杖寺末 川口

井山 曾定 寺 河洲

○川口 善光寺 別名 西禪院 東明院

善光寺 建立久 六年四月定より 信州 善光寺 ありて 善光寺 ありて

善光寺 ありて 信州 善光寺 ありて 善光寺 ありて 善光寺 ありて

善光寺 ありて 善光寺 ありて 善光寺 ありて 善光寺 ありて

善光寺 ありて

○ 鍋屋

相传不是天命同家。按说小人是九十七代光的院内半

磨应年中河内国丹南郡于此所一稻子位于此

○ 宝聚山地藏院锡杖寺 真言 知积院末 日可

本寺 地花子 行基宗 作 寺尔 三十石

○ 岩崎院 寺 寺尔 三十石

寺尔 三十石

寺尔 三十石

三石

